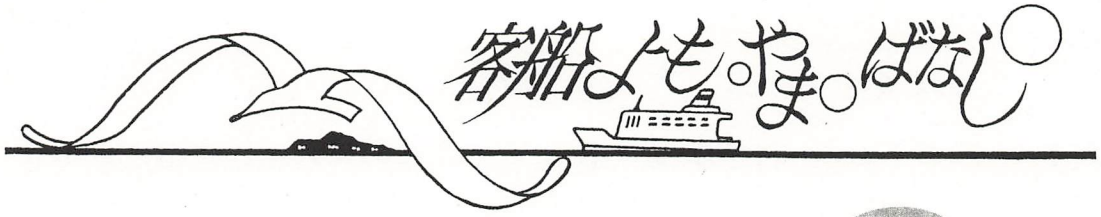
No.370
(2001.9.25)



〈連載147〉

台風迫る日本海で「フェリーらべんだあ」に乗船

大阪府立大学大学院・海洋システム工学分野・教授
池田良穂

8月20日の朝8時に小樽のフェリーターミナルに到着した。台風11号が日本に迫ってきており、欠航も予想されていたが、5時に新日本海フェリーに電話で問い合わせたところ予定通りの10時の出港は決まったとのことであった。埠頭には舞鶴行きの「フェリーらべんだあ」と新潟行きの「フェリーしらかば」が並んで着岸している。

駐車場に車を入れると、係員が「出港はするが、台風の針路次第によっては、途中での避難の可能性もあり、24時間以上の遅れがでる可能性もあります。また海は大荒れになり大揺れの可能性も」とのこと。駐車場のスピーカーからの放送でも、「お急ぎの方や予定のある方は、他の交通機関をご利用下さい」と繰り返している。

青函航路を通って、陸路、大阪までドライブとも考えたが、途中で台風と出会って進路を阻まれることも可能性がある。ここは船の方に託す方がよさそうだ。

8時45分から乗船が始まる。同乗者は別にタラップからの乗船である。車両甲板では、車の感覚をいつもより大きくあけて駐車させている。やはり、かなり揺れることを考えているようだ。

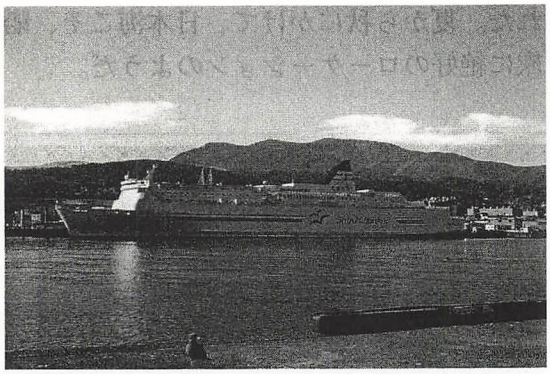
この船には専用のペットルームがある。ここに2匹の犬を預けて、特等の215室に入る。ツインベットにバス・トイレ付きの快適な洋室である。

10時に小樽港を出港。快晴で、海も穏やか。積丹半島がくっきりと見える。さすがに北海道だけあって、デッキに出ると半そででは少し寒いくらいに涼しい。この「フェリーらべんだあ」は外のデッキが広くてよい。特等用には専用デッキがあり、ビーチベッドも並ぶ。

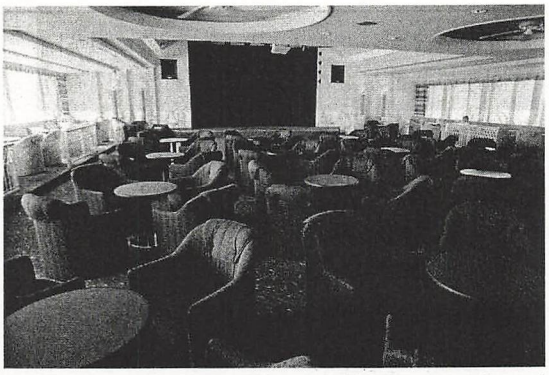
船長からの船内アナウンスでは、「全速で走って、舞鶴に台風の影響がまだ少ないであろう14時への入港を目指してみる」とのこと。デッキからは、美しい積丹半島の山々が遠望でき、きわめて快適な船旅で、とても台風が接近しているとは思えない。

だいぶ後方に、小樽港を遅れて出港した新潟行きのフェリー「フェリーしらかば」の姿が見える。15時半、奥尻島の沖で小樽に向う高速カーフェリー「すずらん」と反航した。ちょうど太陽が沈むころ、19時頃

に、もう一隻新日本海フェリーのフェリーと反航したが、逆光だったためもあって船名は確認できなかった。



フェリーらべんだー



フェリーらべんだーのラウンジ

船内では、後部デッキでバーベキュー、レストランではサービスの食事、グリルでは1等以上の客への予約制の食事があるほか、プロムナードに軽食や飲み物のサービスを行っているコーナーが設けられている。グリルでの食事は予約時間を見落としてしまって、予約ができず、結局3食ともレストランでとったが、価格も味もまずまず。オープンしている時間もゆったりとしていて利用がしやすい。利用客も結構多く、オープン直後には空いているテーブルを探すがたいへんなほど。

一昔前までは、このフェリーの船上では、特に若い乗客の多くが陸上のスーパーマーケットで安く仕入れたカップヌードルばかりを食べていたのに、今回はレストランを利用している若者も多かった。かつては、レストランの利用率の低さから、食事の質が悪く高いものとなり、それで利用者が減るという悪循環があったが、大きく改善されているのが印象に残った。昼には980円のカレーセットを食べ、夕食は、ミニ鉄火丼、冷奴、肉じゃが、豚汁に生ビールもつけて一人あたり2000円ほど、朝は1人700円程度であった。

この船にはプール、スティームバスなどの設備がある。広いオープンデッキ、プロムナード、木甲板など、クルーズ客船にも似たデッキ配置は、ゆったりとした船旅を堪能させてくれる。最上階のラウンジは大きくゆったりとしている。また、1等室の最前部には前方が見渡せるフォワード・サロン、レストランとグリルの前にはプロムナード・サロン、フロント、売店の前のスペースにも、いくつかの椅子と、卵型のビデオルームなどがあり、さらにジムや卓球場などのスポーツ施設もある。日本のカーフェリーとしては、パブリック・スペースが充実している部類に入る。

10時頃から空も暗くなり、海上には白波がたちはじめた。台風の影響がでてき始めたようだ。しかし、並みの波長が比較的短いこともあり、船体の動揺はほとんどない。「13時半には舞鶴入港ができそう」というアナウンスがある。定刻より3時間半も早い到着である。

この航海で、冬の荒れる日本海で定時運航を確保するために、新日本海フェリーのフェリーがかなりのシーマージン（機関の馬力余裕）を持っていることがわかる。また、台風の接近によって荒れることの多い太平洋側に比べて、夏季から秋にかけての日本海は、日本列島が巨大な防波堤となるため、例え台風が接近した場合にも静穏な状態が比較的長く続くことも再確認させられた。夏から秋にかけて、日本海こそ、船旅に絶好のローケーションのようだ。

新刊紹介

英国鉄道と連絡船の旅

三澤春彦　著

かつて隆盛を誇った日本の鉄道連絡船も、他の交通機関にとって代わられ、現在では宮島航路を残すのみとなった。しかし、潮風を肌に感じる連絡船の旅の魅力を懐かしむ声も多い。

島国、海運国、鉄道先進国である英国でも、日本同様、鉄道連絡船は重要な交通機関として発達した。しかし、日本とは異なり、ロンドンから世界各国に空路が伸び、1994年に英仏を結ぶユーロトンネルが開通しても、歴史と伝統を重んじるお国柄からか、今なお20航路を越える連絡船が現役で活躍しているのである。

本書は、これらの連絡船のなかから、ロンドン発の代表的な９航路を紹介したもの。出発から連絡船の桟橋へ向かう列車の話、船旅のあれこれ、到着港の風景などを、ユーモアたっぷりの文章で描いている。

各章末には接続列車の写真を多数収録。連絡船についても１章を設け、その魅力を余すところなく紹介する。

かつてホテルマンとして英国に暮らし、現在ではエッセイストとして数多くの英国関連の著書がある筆者は、いわば英国旅行の達人。本書でも、鉄道連絡船を使う、ちょっと意表を突いた旅の魅力を伝えている。

鉄道や船舶のファンはもちろんのこと、旅行や英国好きな人も必読の楽しい読み物だ。

四六判・178頁・定価1,680円（5％税込）・発送費390円
発行：〒160-0012 東京都新宿区南元町4-51 成山堂ビル
株式会社　成山堂書店
TEL：03-3357-5861　FAX：03-3357-5867
http://www.seizando.co.jp
e-mail publisher@seizando.co.jp